

4つの経営理念等	構成員の主な取組	主なアドバイス
1 経営層のリーダーシップ 2 安全への投資の促進	<ul style="list-style-type: none"> ● 会長トップメッセージの発出、業界としての基本方針の制定 ● 年間安全衛生推進計画の策定、会員企業の実情に併せ左記1～3を安全衛生年間計画に織り込み実施 ● 社長会、理事会、労働安全衛生部会等の開催 ● レスポンシブル・ケア（RC）活動の実施 ● 安全靴のインソールモニタリングモニター（転倒リスク予測） 	<ul style="list-style-type: none"> ● 個社に任せるのではなく、業界団体がリーダーシップを取って、業界全体で進めるとよい。 ● レスポンシブル・ケア（RC）活動はいい取組であるので取り入れるとよい。 ● 大きな災害を減らすため、機械安全を取入れて定着させること。
3 安全人材の育成や安全教育の拡充	<ul style="list-style-type: none"> ● 産業安全塾、管理監督者体験交流会（グループ別討論）等各種研修会等の開催（オンライン、ハイブリッド） ● 経験年数の浅い作業員への安全対策の取組 ● 業界共通の設備安全基準の検討・制定、業界共通の安全衛生教育体系の検討・制定 	<ul style="list-style-type: none"> ● 「産業安全塾」の産・官・学で安全が分かる将来の経営層・管理者を育成する取組は他業界でも参考にしてほしい。 ● 高年齢労働者が配置転換で慣れていないことから事故にあうことがあるので、教育や作業内容などを検討して集中的に対応すること。
4 業界内外への共有	<ul style="list-style-type: none"> ● 安全衛生大会、安全衛生分科会、管理監督者体験交流会、現地安全情報交換会等の開催（オンライン開催） ● 安全重点方針の策定 ● 安全衛生表彰 ● 安全統計の作成・分析 ● 災害事例の水平展開（団体のホームページで会員企業に公開、検索機能付き） ● 危険安全体感教育施設・設備情報の共有化 	<ul style="list-style-type: none"> ● 他業界の良好事例の取組を参考にして活動を高めてほしい。 ● 安全表彰受賞事業所の活動事例を集めた「ベストプラクティス集」に学ぶことはよい取組である。 ● 労働安全衛生の実態調査を化学産業に多い労働災害、起こりうる労働災害について整理されているのは良い取組である。 ● 死亡事故は起こさないという目標を立てて集中的に対策を行い、業界全体で取り組んでほしい。
5 新型コロナ感染症対応	<ul style="list-style-type: none"> ● 労働災害防止のための動画、ドローン、ウェアラブル端末、IoT等技術の活用 ● 労働安全衛生領域における各課題より検討テーマを抽出・選定して各社の垣根を越えた調査・研究活動 ● 職場環境への対策（感染対策チェックリスト、作業服通勤を認める、オンライン会議・研修、パーティションの設置、感染者発生時の体制、屋外で2メートル以上離れていて会話がない場合マスク着用を緩和、事業所訪問の際はPCR検査等により感染の有無を確認等） 	<ul style="list-style-type: none"> ● 強度率が平均より高い場合は、機械・設備の本質安全化対策を図る。他業界の取組を参考にしたい。 ● 災害事例や統計の分析結果の共有は重要であり、優れた解析方法を行っている団体の情報共有をするとよい。 ● 3種類（リスクアセスメントシート、抽出表、動画）のリスクアセスメントによる漏れのない危険減の抽出への取組はいい取組であるので、広く知ってもらい実用化するとよい。 ● 動画、ドローン、ウェアラブル端末、IoT、ICT等を活用した安全対策の情報共有を進めるとともに、技術活用を進めてほしい。

<総括>

- 一番大事なのは死亡事故を起こさないということである。安全第一を前提に働く人の健康、ウェルビーイング、やりがい、生きがいにつなげる。
- 各企業、各業界は経営トップが責任をもって関与してほしい。安全の確保においては経営層のリーダーシップがキーであるので、更なる経営層のリーダーシップをお願いしたい。厚生労働省、経済産業省及び中央労働災害防止協会は経営トップの取組みに協力してほしい。
- 安全人材の育成・安全教育の拡充、重点的に取組む課題抽出と対策、業界内外への共有は、各団体とも積極的にやられており、参考になる素晴らしい取組みがあるので、情報共有を進めてほしい。アドバイザリーボードで、情報の共有化が出来たが、対策として実行していくことになることになると業種によりやり方が変わるので、これについてはさらなる進展が必要ではないか。神戸宣言に基づいたアドバイザリーボードはいい取組であるので続けてほしい。
- ICT技術について現場の知恵を活かしながら成果につなげてほしい。